

アジア圏を中心としたアート による国際交流

造形短期大学部
造形芸術学科
特任講師

木森 圭一郎



研究シーズの紹介

これまで2014年のマレーシアを皮切りに、インドネシア（2015）、マレーシア（2016）、インド（2017,2018,2019,2020,2021）、ベトナム（2018,2019）、ネパール（2019,2020,2021）、ロシア（2021）、韓国（2021）、トルコ（2022）と様々な国と地域で開催された国際アートイベントに参加してきた。

コロナ禍に突入する2019年以前は、実際に現地に赴いての滞在制作（アーティスト・イン・レジデンス）が中心であったが、2020年以降のコロナ禍においてはウェブサイト上でのオンライン展示や、作品を開催国に送った上で、現地で作品を展示するなど、様々な方法を模索・実施し、昨年2022年以降は現地で滞在制作を再開した（マレーシア2022,インド2023,ベトナム2023）。

現代のアート領域において、途上国と先進国という図式は適用されない。相互に交流する他者との間において、常に互いは創造的な何かの先

鋒である。このような平和で公正な価値基準を共通理解とし、それを多くの人人に普及していくためには、その基盤となる芸術教育が必要となる。

このような価値観を共有する、インド北西部ウダイプルに所在する総合大学の芸術学部、「Pacific College of Fine Arts」と、現在大学間連携のあり方を模索している。

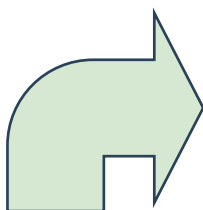
2023年の1月には自らがPacific College of Fine Artsを訪れ、学生に制作指導や制作実演を行い、2024年1月にはPacific College of Fine ArtsのRajesh教授によるオンライン講演会を実施した。これらの相互交流を今後も継続し、両者のアートのニーズを確認し合い、海外の青少年が日本の美術教育や、アートに触れる機会を、また本学の学生や日本の青少年が世界の美術教育アートを知る機会を提供していきたい。



アーティスト・イン・レジデンス

- アーティストが一定期間特定の土地や地域に招聘され、滞在しながら芸術作品の制作を行うアート事業。

①制作実演を交えての技法解説(インド)



③参加アーティストや学生との国際交流(インド)



②合同作品展の実施(マレーシア)



④外国人講師による講演(オンライン)

期待される活用シーン

- 外国生活とアートを同時に体験・学習したいな・・・



諸外国の連携大学や組織へ希望学生の派遣



独創的な
アイデアや技術の獲得

- 言語は苦手だけどアートは得意なんだよな・・・



国際アートイベントの招待アーティストとして派遣
・日常会話は主催者側が通訳や機械翻訳でバックアップ



言語に頼らない表現の
獲得と実践